

令和5年度小江原小学校学力向上プラン

【学校教育目標の実現】

『心豊かで 自ら学ぶ 小江原っ子の育成』

～自律し、尊重し合う子どもを育てる～

「ねばり強く学び合う子」 「心と体をきたえる子」 「互いに理解し支え合う子」



【学力向上の取組】

『育てたい力』『身に付けさせたい力』を 明確にした授業づくり

- ◎国語科の校内研究を推進し、魅力ある言語活動を設定するとともに、問題解決学習を展開する。
- ◎教科で学んだことを生活科・総合的な学習の時間に活用する。
- ◎「めあて」と「まとめ」を確実に位置づける。
- ◎1単位時間のゴールを明確にした授業実践
- ◎児童の学力を高める板書の工夫
- ◎ノートの取り方、指導の共通理解・実践
- ◎「まず」「次に」「最後に」「だから」などの言葉を用いた説明活動の充実
- ◎発表や反応の仕方など話形を示した共通理解・実践
- ◎自分の考えや学んだこと等書く活動を位置づける。

家庭学習・学習規律の定着

- ◎「算数」「漢字」「音読」など、家庭学習に関する共通理解・実践(家庭学習の手引きの配布)
- ◎計算力の向上(単元末テストの知識及び技能の観点で平均90点を指す。)
- ◎スキルタイムを活用した基礎学力の定着
- ◎「学びの習慣化メソッド」保護者への啓発
- ◎国・県・市学力調査の結果活用

読書指導の充実

- 国語科における並行読書
- 週2回の朝読書実施
- 学期1回の教職員による読み語りの実施
- 図書ボランティアによる昼休みの読み語りの実施



【本校の児童の実態】

- 与えられた課題にしっかり取り組む児童が多い。
- 興味があることへの学習意欲が高い。
- これまでの研究により「まず」「次に」「最後に」「だから」などの言葉を用いた説明活動が定着しつつある。
- ▲人の話を最後まで聞くことができない児童が多い。
- ▲算数の文章問題が苦手。
- ▲思考力・表現力が十分でない。

【学力調査の結果から】

- 令和5年度6年生は、国語科・算数科ともに、全国平均を上回っている。5年生も国語科・算数科ともに県平均を上回っている。
- ◇「基礎的な知識・技能の定着」「考える力の向上」全ての教科において書く活動が必要
- ▼令和5年度4年生は国語科が市平均より上回っており、算数科は下回っている。3年生は、国語科が市平均より下回り、算数科は上回っている。
- ▲領域別では、国語の「読むこと」「書くこと」算数の「考え方」に課題があり、特に「図形」に課題がある。